


平成 30 年 度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから11ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 解答用紙の  の得点欄には、何も書いてはいけません。
- 5 答えは、全て解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 6 問題は五題で、11ページまであります。
- 7 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 8 解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

一 春香さんの学校では、トライやる・ウィークの礼状を作成する際、クラスで互いに検討している。【下書き】を読んで、あとの問いに答えなさい。  
【下書き】

拝啓 紫陽花<sup>あじさい</sup>が目を楽しませる季節になりました。皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。私は、勉強や部活動にがんばって取り組んでいます。

さて、先日のトライやる・ウィークでは、お忙しいところ、介護の仕事や言葉遣いを丁寧<sup>②</sup>に教えてくださり、本当にありがとうございました。

レクリエーションの時間には、お年寄りの方と一緒に歌ったり、体を動かしたりして、とても楽しかったです。昼食の時間には、お年寄りの方と食事をしながら話すことができ、良い経験になりました。食事はとてもおいしかったです。スタッフの方が、いろいろなことに気を配り、一人一人に合った対応を工夫されている様子を見て、丁寧な仕事ぶりに驚きました。

来月には、夏祭りが開催されるとうかがいました。そのときはセンターを訪問し、お手伝いをしたいと思っています。

蒸し暑い日が続きますが、お体を大切にしてください。

敬具

六月八日

みどり中学校 二年一組 桜井春香

のじぎくの丘デイサービスセンター

青木由美様

杉原裕二様

問一 傍線部①の時候の挨拶について述べた意見として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 「八十八夜を過ぎ、茶摘みの便りが聞かれる季節になりました。」を使ってもよい。

イ 「木犀ももせの良い香りが漂う季節になりました。」を使ってもよい。

ウ 「麦畑が黄金色に染まる季節になりました。」を使ってもよい。

エ 「燕つばめが去り、雁かりが渡ってくる季節になりました。」を使ってもよい。

問二 傍線部②について、春香さんは、トライやる・ウィーク中に次のようなことばをお年寄りにかけた。表現が適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 何かお困りですか。私にできることは何でもやらさせていただきます。

イ 山川さんの切り紙をご覧になりましたか。すばらしい作品ですよ。

ウ 庭の花がきれく咲いていたので切ってきました。ここに飾っておきます。

エ なにげに空を見上げたら、大きな虹が出ていました。見にまいますか。

問三 春香さんは、クラスメートの意見を参考にして、【下書き】の  で開った段落を、次のように修正した。【修正文】について、あとの問いに答えなさい。

【修正文】

普段お年寄りの方と話す機会がないので、はじめは、どのように接すればいいのか分かりませんでした。スタッフの方が、声かけや介助の仕方を一人一人に合わせて工夫されている様子を見て、私も、相手の気持ちや体調を考えて声をかけようと努力しました。少しずつ自然な声かけができるようになり、お年寄りの方に笑顔で「ありがとう」と言っていたいたときは、とてもうれしく思いました。レクリエーションの時間に、一緒に体を動かしながら話をしたときの笑顔も忘れられません。相手の気持ちを理解しようとする姿勢の大切さを実感しました。

これからの学校生活でも、この体験で学んだ相手への思いやりを大切にして、人と接していきたいと思います。

(1) 次のクラスメートの意見ア～エのうち、春香さんが【修正文】に取り入れなかったものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 積極的に活動したことがよく伝わるように、レクリエーションの時間にしたことをもっとたくさん書けばよい。

イ 食事がおいしかったという感想は、お客さんとして訪れているかのような印象を与えるから、省くとよい。

ウ 施設でお年寄りの方とふれあった体験について、印象に残ったエピソードを具体的に書いたほうがよい。

エ トライやる・ウィークでの体験から学んだことを、これからの学校生活にどのように生かすのかを書けばよい。

(2) 【修正文】には、(1)のクラスメートの意見のほかに、春香さんが書き加えたことがある。その内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 施設スタッフの声かけの具体例を挙げ、それを参考に様々な場面に合わせて声かけを工夫したことを記した。

イ 施設スタッフの仕事ぶりから学び、レクリエーションの準備が段取りよくできるようになったことを記した。

ウ お年寄りから笑顔で接してもらい、喜びを感じた経験から、自分も笑顔で人に接するようになったことを記した。

エ 体験を通じて相手のことを考えた対応ができるようになったことを、その場面での自分の気持ちを交えて記した。

二 次の書き下し文と漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔書き下し文〕

秦の恵王の時、蜀王秦に降らず。秦も亦た道の蜀に出づる無し。蜀王万余人を従へ、東して褒谷に獵し、卒かに秦の恵王に見ゆ。秦王金一笥を以て蜀王に遺る。蜀王報ゆるに(贈り物)禮物を以てするに、禮物尽く化して土と為る。秦王大いに怒るに、臣下皆再拜して賀して曰はく、「土は地なり。秦(必ず)当に蜀を得べし。」と。

〔漢文〕

秦 恵王 時、蜀王 不降 秦。秦 亦 無道 出 于 蜀。蜀王 従 万余 人。東 獵 褒谷。卒 見 秦 恵王。秦 王 以 金 一 笥 遺 蜀王。蜀王 報 以 禮物。禮物 尽 化 為 土。秦 王 大 怒、臣 下 皆 再 拜 賀 曰、「土 者 地 也。秦 当 得 蜀 矣。」

(注) 秦、蜀——古代中国の国の名。褒谷——谷の名。

〔蜀王本紀〕

問一 「降」と組み合わせると熟語を作ったとき、「降」が傍線部①と同じ意味であるものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 伏 イ 雨 ウ 昇 エ 乗

問二 書き下し文の読み方になるように、二重傍線部に返り点をつけなさい。

問三 傍線部②の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 急いで秦の恵王に会おうとした。

イ 思いがけず秦の恵王に出会った。

ウ 運良く秦の恵王を見つけた。

エ しばらくして秦の恵王に見つかった。

問四 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 秦王の臣下は、土を贈ってきたことで蜀王の権威が地に落ちることとは間違いないと考え、怒る秦王に蜀を攻めることを進言した。

イ 秦王の臣下は、蜀王が贈り物を土に変えたことに怒る秦王を、蜀に贈った金もいずれ地に返るのだから怒ることはないとなだめた。

ウ 秦王の臣下は、怒る秦王に、蜀王からの贈り物が土に変わったこととは、蜀の土地が秦のものとなる良いきざしだと説明した。

エ 秦王の臣下は、怒る秦王に、蜀王から贈られた土は、蜀王を地、秦王を天にたとえた服従の気持ちの表れであると言ひ、祝福した。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

豊臣太閤、聚楽の亭に点茶の会ありて、中院内府を招かれしに、頃し

(茶の湯の会)

も冬の末なれば、庭の草木も霜いと白く置きて、朝日やや差し出づるほど

に、遣水より煙の立ち上るなんと、いと物静かなるに、春待ち顔なる

鶯の呉竹に木伝ひて、まだ音も立てやらぬさまを太閤御覧じて、「和歌の

徳は目に見えぬ鬼神をもやはらぐると聞き侍れば、あはれ歌詠みて、陽谷

の春の景色を返し給へかし」とありしかば、内府うち笑みて、「それはそ

の人の徳にこそより侍らめ。通茂などが身にて、如何でさる事は思ひかけ

待るべき」と宣ひながら、

朝霜の寒きねぐらの呉竹にひかけ待ち得て鶯ぞなく

と詠み給ひければ、やがてかの鶯うち上がりて、はなやかに一声鳴いて飛

び行きければ、太閤をはじめなみ居る人々、限りなく愛で感じけるとぞ。

(『落栗物語』)

(注) 聚楽の亭——聚楽第。豊臣太閤が京都に営んだ豪邸。

中院内府——中院通茂。宮廷歌壇の中心人物。

遣水——庭に水を導き入れてつくった細い流れ。

陽谷——中国で、太陽がのぼると考えられていた東の果ての地。

問一 二重傍線部を現代仮名遣いに改めて、全て平仮名で書きなさい。

問二 傍線部①・②の主語として適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

ア 豊臣太閤 イ 中院内府 ウ 鶯 エ 筆者

問三 傍線部③の意味する内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 茶会にふさわしくない身分の私

イ 道を極めたとはいえない私

ウ 鬼神ほどの霊力を持たない私

エ 春の景色に似つかわしくない私

問四 傍線部④と同じ内容のことばを、本文中から二字で抜き出して書きなさい。

問五 本文の内容の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 内府が、呉竹に鶯がいなのが残念だという歌を詠むと、鶯が一声鳴いて呉竹に飛び移り、太閤の望む景色となったため、その場の人々は景色を一変させた内府の力に感嘆した。

イ 内府が、和歌の神秘的な力を使って太閤の望みどおりに目の前の景色を変えたところ、鶯が鳴き声を上げたため、その場の人々は季節を動かした内府の力に感動した。

ウ 内府が、目の前の景色を太閤の望む華やかな景色に変えようとして、鳴き声を上げていた鶯を飛び立たせたため、その場の人々は鶯を意のままにした内府の力に感激した。

エ 内府が、太閤の求めに応じて歌を詠むと、歌のとおり鶯が鳴き、目の前の景色から春らしさを感じる事ができたため、その場の人々は春を呼びこんだ内府の力に感心した。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

南和中学校三年生の初田稚以子（はっち）は、壁新聞の写真係を務めている。夏休み中の県大会で、高杉潤五が所属する男子バレー部は北信越大会進出を決めたが、活躍が期待された軟式テニス部の赤緒梓は初戦で敗退した。二期の初日、高杉が赤緒とともに登校すると、県大会の結果を伝える壁新聞が掲示されていた。

大判の模造紙が掲示板の高いところに貼られていた。夏休み中に制作していたのか、やはり壁新聞の新しい号だ。赤緒の予想どおりトップで扱われているのは男子バレー部の県大会突破および北信越大会の記事——しかし高杉が強烈に目を吸い寄せられたのは、その隣の、自分たちの記事の半分の扱いで載っている記事のほうだった。

①「……はっち……」  
掠れた声で呟いた。

軟式テニス部の敗退を伝える見だしとともに、赤緒のアップの写真が大きく載っていた。あときははっちが夢中で撮っていた——不細工なほどに顔を歪め、涙をぐしゃぐしゃに垂れ流し、食いしばった歯を剥き、鼻水まで垂らして、一人、夕暮れのコートに這いつくばっている赤緒が——。  
「……なに……これ……」

高杉に遅れて掲示板を視界に捉えた赤緒が呟いた。と、唐突に身をひるがえして駆けだしたので「赤緒!？」と高杉は驚いて振り返った。スカートなのも構わず男子顔負けの一段飛ばしで赤緒の姿はあつという間に階段の上に消えていった。

あとを追って高杉も三階に着いたとき、赤緒は3-3の教室の戸口で立ちどまっていた。

「あか……」

赤緒の後ろに立って教室の中に目をやり、高杉は言葉を切った。

寺川たち赤緒グループの女子三人と高杉の仲間の男子二人が、教室の後ろの壁にはっちを追いつめて取り囲んでいた。いつものようにカメラを胸

の前でしっかり持ったはっちが自分より背の高い五人を目を丸くして見あげている。

「どういうつもりやの。今まで梓に目えかけてもらって、あんな写真載せるなんて」

寺川が中心になってはっちに詰め寄る。

「あ、壁新聞のこと……?」

なんの話がされているのか今悟ったようなはっちのリアクションに寺川たちが気色ばむ。クラスの「声がかい」グループ五人に取り囲まれながら、驚いたことに、はっちはたいして萎縮していなかった。それどころか嬉しそうに顔を輝かせずらして言い出した。

「あの写真ひっでよう撮れたで、みんなに見て欲しいって——」

男の一人が壁を蹴りつけた。すぐ脇で轟音を立てられてはっちがさすがに凍りついた。

「あっ……梓」

戸口に立っている赤緒に寺川たちが気づき、なんとなく気まずそうな顔になってはっちの包囲網をゆるめた。「新聞見てもた……?」

無言のまま赤緒が教室に踏み入った。寺川たちがあけた場所に赤緒が入り、はっちの正面に立つ。「赤緒ちゃん、おはよう……」未だいまいちなを責められているのか理解していない顔ではっちが笑いかけたが、

②「ゴシップ記者でも気取ってるんか?」

冷やかな赤緒の声に、ふにゃんとゆるんだ顔が固まった。「ほやほや。ちょっと写真うまいでって調子乗ってんでないの?」寺川たちがまわりから加勢する。そこまで言われてはっちもやっと自分が吊るしあげられている事態を理解しようだった。さっと顔から血の気が引いた。

「えっ……? ちっ違ふよ、待って赤緒ちゃん、わたしはみんなに……」

③「人の変顔隠し撮りして笑いのにするなんて最低な趣味やな。キモいわ」

弁明しようとしたはっちを赤緒が辛辣な口調で遮る。ところがはっちも

意外な頑固さで譲ろうとせず、しどろもどろになりつつも言い募る。

「ちっ違うよ、せっぜんぜん変やないよ、いい写真やよ。負けたときにあんなふうにいっぱい悔しがれるんは、赤緒ちゃんがひっでテニス頑張ってたでやよ。モテる自慢したいとか、ほんだけでやれることやないよ。わたしそれをみんなに……」

「誰がいつそんなこと頼んだの!？」

突然激昂した赤緒の裏返った声が教室に響いた。

「人が見られないもん学校中に晒して、ほんで面白いの!？」

④ はっちが目を丸くして口をつぐんだ。

静まり返った教室に自分の声はまだ反響する中、赤緒がふいと顔を背けた。「梓……」という寺川たちの気遣わしげな声にも応えず、戸口で立ち尽くしている高杉のほうに早足で歩いてくる。

「……潤五。あれ剥がしたいで、手伝ってくれる?」

⑥ 顔を伏せて小さな声で言い、廊下へでていった。

「あ、ああ……」

赤緒に続く前に高杉は一度教室を振り返った。はっちは石になったように固まっていた。蒼ざめて強張った顔で赤緒がいた場所を見つめたまま、けれど、まだなにか言いたそうに唇が動いた。ほやけど……いい写真やよ……

予鈴が鳴ったので踊り場の掲示板の前で足をとめていた生徒たちは捌けていた。いつも新聞を貼っているのははっちなのか、それとも新聞担当の教師なのか他の誰かなのかは知らないが、その誰かが貼るときには椅子か脚立に乗って留めたのであろう画紙に、高杉は背伸びをすれば手が届く。画紙を外すとき、間近で赤緒の泣き顔をもう一度見るようになった。

⑦ だよな、はっち……。心の中で同意の呟きを漏らす。あの場ではっちを庇えなかった自分の度胸のなさに、後ろめたさを覚えながら……おれもこの写真、いいと思うよ。これまでではっちが撮ってきた赤緒の写真のどれよりも、おれが一番これがいいと思った。

赤緒が自分で変顔と言ったとおり、正直本当にひどい顔だった。自他ともに認める赤緒の整った顔が見る影もないほど不細工になり果てていた。けれど……今まで知っていた赤緒のいろいろな顔の中で、高杉が一番惹きつけられた顔だった。(壁井ユカコ『空への助走』)

(注) ひっで——「とても」という意味の方言。

撮れたで——「撮れたので」という意味の方言。

ゴシップ——うわさ話。

問一 傍線部③・⑤の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 二重傍線部にある自立語の数を、数字で書きなさい。

問三 傍線部②の本文中の意味として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 恥ずかしがるほど

ウ 圧倒されるほど

問四 本文を場面展開の上で三つに分けるとすれば、三番目の場面はどこからか。始めの四字を本文中から抜き出して書きなさい。ただし、句

読点、かぎ括弧(「」)、リーダー(……)などの記号も一字に数える。

問五 傍線部①の高杉の心情の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 強烈な印象を与える赤緒の写真に掲載してまで、壁新聞に皆の目

を引こうとするはっちのやり方にあきれている。

イ はっちが最も皆に見せたかったはずの赤緒の写真なのに、トップ

記事の半分の扱いで掲載したことに戸惑っている。

ウ 赤緒がテニスに夢中になっていることが伝わってくる、はっちが

撮った写真のこれまでにない迫力に驚いている。

エ はっちの熱心に撮っていた様子を思い出しながらも、見た目にひ

どい赤緒の写真を掲載したことに困惑している。



問六 傍線部④のはっちの様子の説明として最も適切なものを、次のア～

エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 赤緒のテニスへのひたむきな思いをとらえた写真を掲載した自分の真意を赤緒に分かってもらおうとしたが、赤緒が心から嫌がっていることを思い知らされ、驚きでことばが出なかった。

イ 赤緒の素晴らしさを伝える写真を剥がされそうになり、自分の意図を伝えようと赤緒に食いがつたが、写真の良さが赤緒本人にさえ理解されていないと気づき、自信を失って沈黙した。

ウ 人目をはばからずに敗戦を悔しがる姿をとらえた写真こそ、赤緒の魅力を伝えるものだと確信して掲載したのに、赤緒から写真を撮った目的まで否定されたので、悔しさにことばを失った。

エ テニ스에打ち込む赤緒の姿を皆に知ってもらうために掲載した写真、赤緒が喜んでくれると思っていたにもかかわらず、隠し撮りをしたかのように責められ、悲しみのあまり絶句した。

問七

傍線部⑥の赤緒の言動の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 自分の泣き顔を撮っていたことは知っていたが、その写真を掲載したはっちへの怒りで、これ以上話すのが嫌になったから。

イ 自分が怒りをぶつけたにもかかわらず、まだ何か言いたそうなのはっちを黙って見守っている高杉の態度にいらだったから。

ウ 思わず感情をさらけ出したものの、冷静さを取り戻し、これ以上はっちに関わるより、自ら状況を変えるほうがよいと思ったから。

エ 一時の感情にまかせて大声を上げてしまったものの、はっちへの八つ当たりには過ぎないことを自覚し、情けなくなったから。

問八 傍線部⑦における高杉の心情の説明として最も適切なものを、次の

ア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 写真が赤緒の内面の魅力をとらえた写真であることには初めて見たときから気づいていたのに、はっちの思いを赤緒にうまく伝えられず、はっちを悪者にしてしまったことを後悔している。

イ プライドを傷つけられ、壁新聞を剥がしたいという赤緒の気持ちは分からないでもないが、赤緒のテニスに取り組む姿勢が伝わってくる良い写真であるというはっちの思いに共感している。

ウ 最初見たときには気づかなかったが、間近で改めて見た今、赤緒の輝く表情をとらえた良い写真だと思うようになり、はっちの思いをくみとれずに味方になってやれなかった自分を恥じている。

エ 今になって、はっちが写真に込めた赤緒への思いをようやく悟った自分の鈍感さを責めながらも、教室を出る寸前に聞こえてきたはっちの呟きを理解することができたことに満足している。

問九

本文の表現の特徴の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 効果的に「……」を用いることで、登場人物の言動の背後に隠れた心情を、より深く読者に感じ取らせようとしている。

イ 立場の異なる複数の視点から描くことで、事態の複雑な背景を、読者が多面的に解釈することができるようにしている。

ウ 登場人物と同年代の読者にとって視覚的にイメージしやすい直喩を多用することで、情景をリアルに感じさせようとしている。

エ 方言を使う登場人物の純朴なイメージを、方言を使わない人物との対比で強調し、人物像をとらえやすくしている。



ゆえに人工知能が、生物とちがって⑥に囚われ、環境変化に柔軟に  
対処できないのは当たり前である。

大脳の論理的機能に依存しているという点では、人間の専門家も人工知  
能とあまり変わりはない。専門知、とくに近年の学問は、ほとんどが論理  
的な体系である。だからエキスパート・システムに見られるように、人工  
知能は専門知に近いのである。

とはいえ、両者には重要な違いがある。

人間の脳がもつ論理的機能は、コンピュータとちがって、単独で作動  
しているのではない。大脳新皮質の機能を支えているのは、感情や情動を  
つかさどる大脳旧皮質（大脳辺縁系）や、内臓の作動をコントロールする  
脳幹など、他の動物の脳にも在るもつとベーシックな部分のはたらきであ  
る。近年の脳科学によれば、人間の合理的判断は実は、情動によって駆動  
される部分も大きいという。暗黙知もそういうはたらきと関連していると  
思われる。

要するに、人間の論理的機能の基盤には「身体」があるのだ。生物進化  
の歴史を見ても、大脳新皮質の発達した生物の登場はつい最近の出来事で  
あり、生物の情報処理の圧倒的大部分は、論理というより生理的な反応に  
他ならない。

これまでの文明の大部分、とくに近代文明は、人間の専門家が担ってき  
た。過去の知識を文書に書きとめ、仮説をつくってデータを集め、実証と  
論理によって仮説の精度を探究していくのである。半世紀くらい前まで  
は、ひとまずそれでよかった。天変地異の予測や複雑な社会的予測も、専  
門家まかせて済んだのである。

⑦、二〇世紀後半あたりから、知識文書や専門家の数が急速にふえ  
てきた。データ量も天文学的に増加していく。それにとまって、専門が  
針先のように分化してしまい、分野のあいだに壁ができて、交流も難しく  
なっていた。もはや優れた専門家でも、狭い分野のことを理解し検討す  
るのに精一杯で、⑧、大局的な判断が難しくなってしまったのである。

集合知とは、現代文明のこういう欠陥を補うための手段として位置づけ  
られるだろう。一般の人々の多様な知恵が、適切な専門知のバックアップ  
をうけて組み合わせられ、熟議を重ねて問題を解決していくのが、二一世紀  
の知の望ましいあり方なのだ。

とすれば、理想的なビッグデータ型人工知能、すなわちIAの役割はも  
う明らかだろう。人手にあまる膨大なビッグデータを分析し、専門家にヒ  
ントとなる分析結果を提供しつつ、集合知の精度や信頼性をあげていくこ  
とこそ、その使命といえないだろうか。

(注) AI——人工知能。  
(西垣通「ビッグデータと人工知能」 一部省略がある)

暗黙知——明確に言葉で表現することが困難な知識。

シャノン情報理論——情報の伝達及び処理についての数学的理論。

大脳新皮質、大脳旧皮質、脳幹——脳の部位の名称。

演繹——一般的な法則から、具体的な結論を導き出すこと。

帰納——具体的な事実から、一般的な法則を導き出すこと。

エキスパート・システム——専門家の判断・操作の代行を目的と  
したシステム。

ビッグデータ——多くの種類、形式を含む巨大なデータ群。

問一 二重傍線部A、Cの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のA、

エからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

A ア 身元のシヨウ会をする。 イ 民間の伝シヨウを調べる。

ウ ウ 絵画を鑑シヨウする。 エ ハトは平和のシヨウ徴だ。

B ア 将来の指シンを得る。 イ 状況をシシクに受けとめる。

ウ ウ 所得のシシク告をする。 エ 会員相互の懇シシクを図る。

C ア 晴コウ雨読の日々を送る。 イ 交渉が難コウする。

ウ ウ 福利コウ生の充実を図る。 エ 新しい理論をコウ築する。

問二 傍線部②・⑧の意味として適切なものを、次の各群のA～Eからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

- ② A 日常の場面で用いる      I 限られた範囲に用いる  
ウ いろいろな方面に用いる      E 決まった方法で用いる  
⑧ A 客観的な視点による      I 全体の状況をふまえた  
ウ 当面の情勢にあわせた      E 誰もが納得する

問三 傍線部①について説明した次の文の空欄a・bに入る適切なことばを、aは本文中から漢字四字で抜き出して書き、bはあとのA～Eから最も適切なものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

価値観は a が生み出すものであるため、b と考えること。

- A 人工知能が生物にとっての生命の価値を判断することはできない  
I 人工知能が人間の判断に対して影響を及ぼすことはできない  
ウ 人工知能が人間の決めた基準に沿った判断をすることはできない  
E 人工知能が能動的に判断の基準を設定することはできない  
問四 傍線部③の説明として最も適切なものを、次のA～Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A データ（記号）化するまでもなく、生物が生きるために現時点の状況に対応して下す判断を方向づけるもの。

I 生物が生きるために意思決定をした結果、自分自身を取り巻く状況からデータ（記号）として認知したものを。

ウ 生物が生きるために必要なものの中で、データ（記号）として蓄積され、合理的な判断のよりどころとなるもの。

E データ（記号）で置き換えることができ、生物が変化する環境下で生きるために持つ理性や暗黙知から導き出すもの。

問五 空欄④・⑦に入ることばの組み合わせとして適切なものを、次のA～Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- A ④しかも      ⑦だから      I ④ただし      ⑦しかし  
ウ ④すなわち      ⑦そこで      E ④つまり      ⑦だが

問六 傍線部⑤の理由として最も適切なものを、次のA～Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- A 人工知能の合理的な判断は、人間の脳の感情や情動をつかさどる機能を忠実に再現することによって行われるから。  
I 人工知能の論理的な機能は、全て前もって決められた手順に従って行われる処理として説明することができるから。

ウ 人工知能の論理的な判断の過程は、人間の左脳のはたらきと同様、近代の脳科学の進歩によって解明されているから。

E 人工知能の論理的な機能は、周囲の環境からデータを抽出して形式的に処理する点では人間の情報処理と変わらないから。

問七 空欄⑥に入る適切なことばを、次のA～Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- A 過去のデータ      I 未来の予測  
ウ 周囲の環境      E 現在の状況

問八 本文における筆者の主張として最も適切なものを、次のA～Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 身体を持たないために幅広い分野に対応できる人工知能を活用し、専門家の交流を促すことで、細分化された分野の枠を越えて意見が集約され、人々は様々な問題を解決していくことができる。

I 身体の制約を離れて圧倒的な速度で情報を処理する人工知能の特性を生かし、専門的内容を分かりやすく分析して提供することで、専門外の人々でも問題解決に向けて議論することができるよう。

ウ 大量の情報を高速処理する人工知能を用いて、身体を持つ人間特有の知恵を集約・分析し、専門家が活用しやすく組み合わせることで、人々は問題解決のためのより深い議論をすることができるよう。

E 人間の身体から大脳の論理的機能を独立させた人工知能を用いて、一般の人々の多様な考えを組み合わせることで、専門家まかせの社会的予測から脱し、容易に問題を解決していくことができる。